

この座談会は、恵比寿・代官山地域への理解を深め、参加者間の交流の機会とすることを旨として開催されました。座談会では、地域に16ある町内会の各会長に対し、

- ①町内がどのようなであればよいと思うか
- ②時代にともなう地域の変化についてどう感じているか
- ③将来の望ましい恵比寿・代官山の姿はどのようなものか
- ④街の将来を担うべき人たちに何を望み、何を伝えたいか

などについて事前にアンケートを実施し、寄せられた回答を出発点にとっても活発な議論が交わされました。



## 時代にともなう地域の変化

多くの町会長さんから指摘されたのは、近隣との交流が難しくなっていることでした。

- プライバシー意識が強くなってきている。
- 商店のテナント化、賃貸住宅化が進み、街への愛着心や期待感に大きな開きが生じてきた。
- 地域・商店が個性化し多くの人を集めているのは喜ばしいが、果たして地元の客は訪れやすいだろうか？ 地域に密着したまちづくりが必要だ。
- かつては向こう三軒両隣という感じで、みな地域を愛していた。恵比寿盆踊りのような、大勢の人が集まり楽しめるようなイベントがあるといい。

## 「広場」の必要性

「人が集まる空間、場をつくっていく必要がある」という意見が出たのをきっかけに、「なぜヨーロッパの街には昔から広場があって、日本の街にはなかったのか」という疑問が出されました。

昔の日本では、道が人びとの交流の場所になってきたという歴史的経緯、近代以降の都市計画では防災上の観点も含めて広場をつくってきたものの、それが必ずしもコミュニケーションの場とはなっていないということです。

恵比寿・代官山らしい“たまり場”とはどういうものなのか、具体的に考える必要があることが確認されました。

